令和8年度全国学力・学習状況調査

ICT活用による効果

ICT活用による効果　～ICT活用の効力感～

○　**約９割の児童生徒が、ICT機器については「分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などと考えている。**

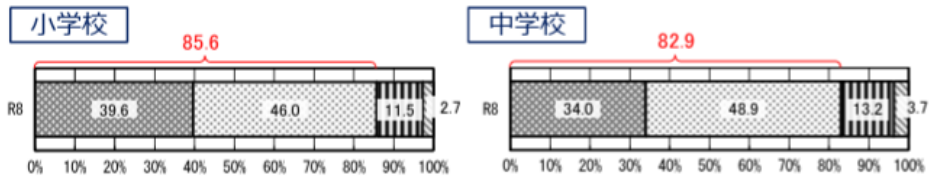
○　ICT機器が日常の学習に定着し、効果的な活用ができている様子が見られる。

児童〔37〕
生徒〔37〕

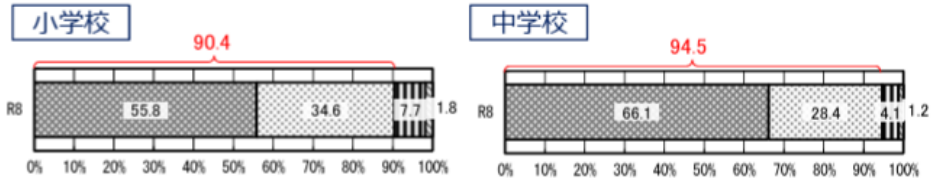
５年生まで〔１、２年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。



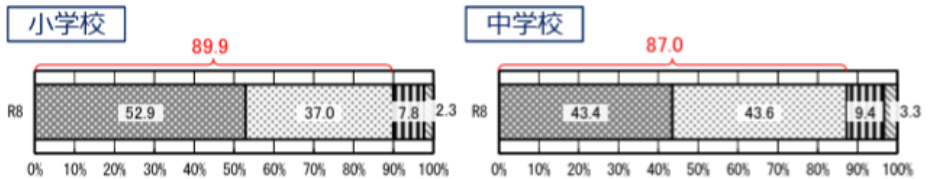
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。



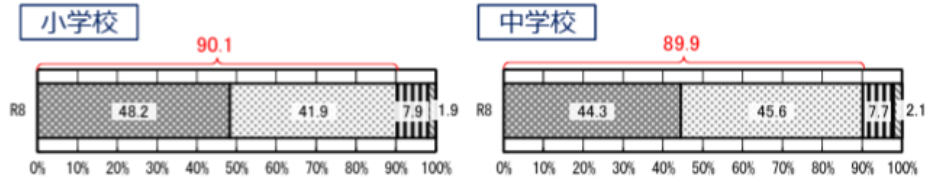
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。



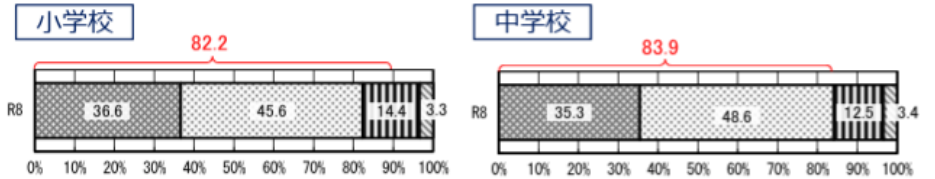
(3) 楽しみながら学習を進めることができる。



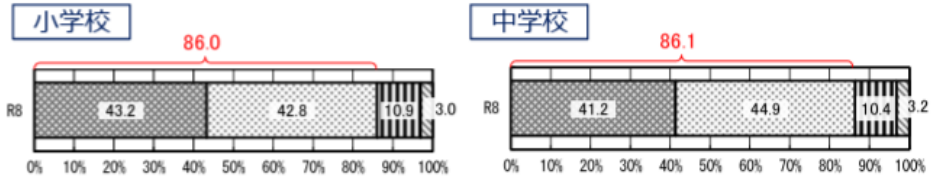
(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。



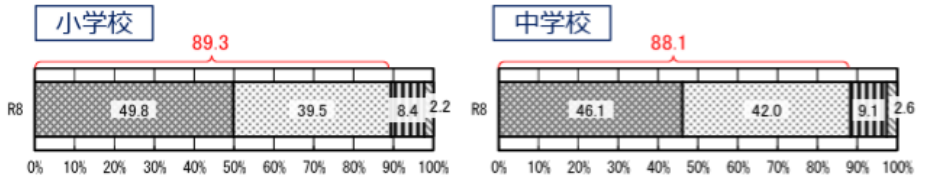
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



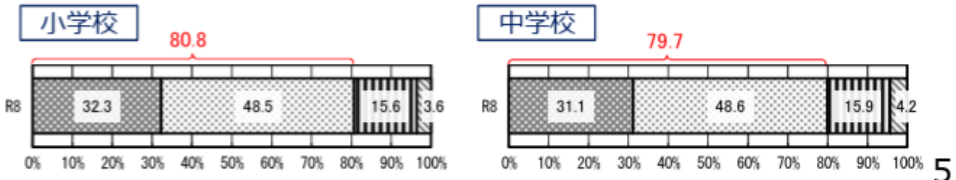
(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。



(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる。



(8) 次の学習に取り組む際に、自分の学習の状況や成果を振り返ることができる。



ICT活用による効果　～ICTを活用する自信×学びへの意欲・工夫～

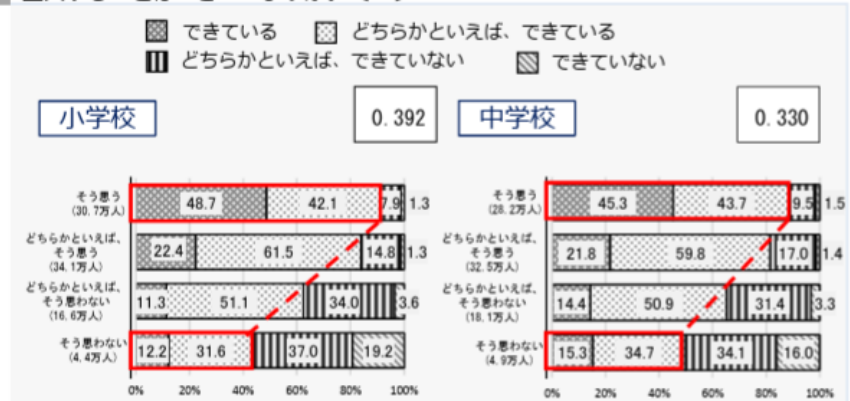
○　**ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど**、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに**自分で学び方を考えて工夫**したり、課題の解決に向けて**自分で考えて取り組んだりしている**と考えている傾向が見られる。（**個別最適な学び**）

○　**ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど**、話し合う活動を通じて**自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたり**、**自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫**して発表したりしていると考えている傾向が見られる。（**協働的な学び**）

クロス集計（児童生徒）　［ICTで情報を整理できる］×［自分で学び方を考え、工夫する］

分からないことやくわ〔詳〕しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕

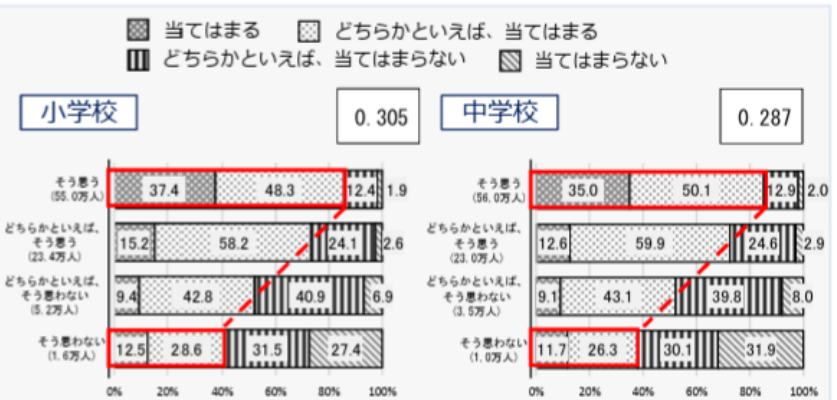
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。〔36－3〕



クロス集計（児童生徒）　［インターネットで情報収集できる］×［課題の解決に向けて自分で考えて取り組む］

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕

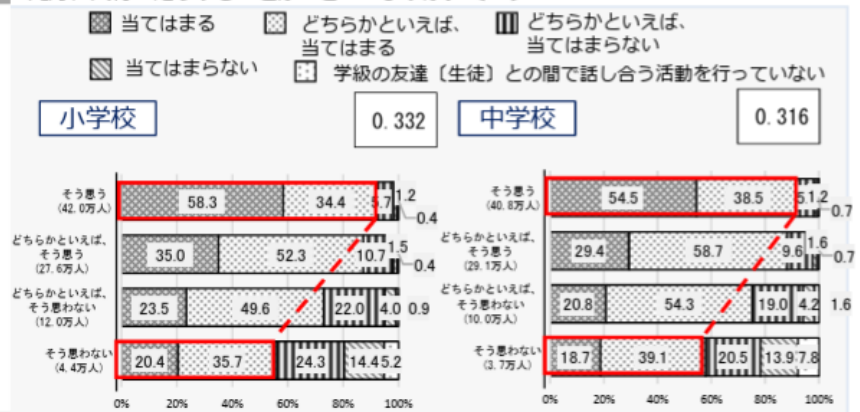
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。〔36－2〕



クロス集計（児童生徒）　［プレゼンを作成することができる］×［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］

学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。〔36－4〕

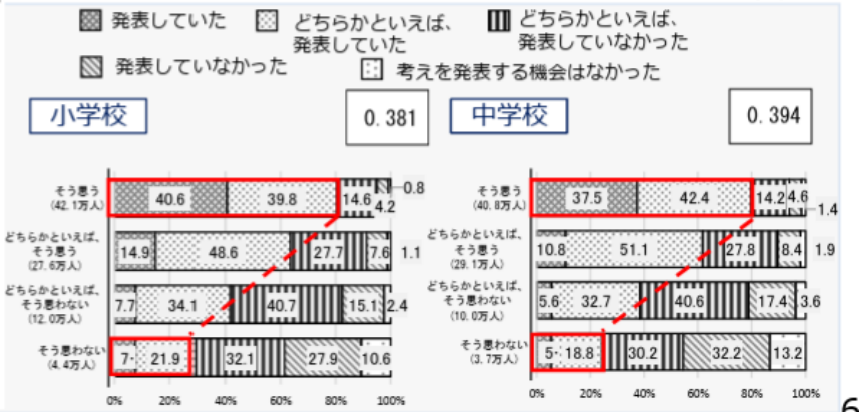


※　相関係数は、児童生徒質問42における「話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（児童生徒）　［プレゼンを作成することができる］×［自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した］

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。〔38〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。〔36－4〕



※　相関係数は、児童生徒質問38における「考えを発表する機会はなかった」の回答を除外して算出

文部科学省

令和８年１０月１日
第１１回デジタル学習基盤特別委員会
資料２

次期学習指導要領に向けた審議における情報活用能力の抜本的向上に係る検討の状況について

教育課程企画特別部会　論点整理（令和7年9月25日）時点での情報活用能力抜本的向上を図る方策の方向性

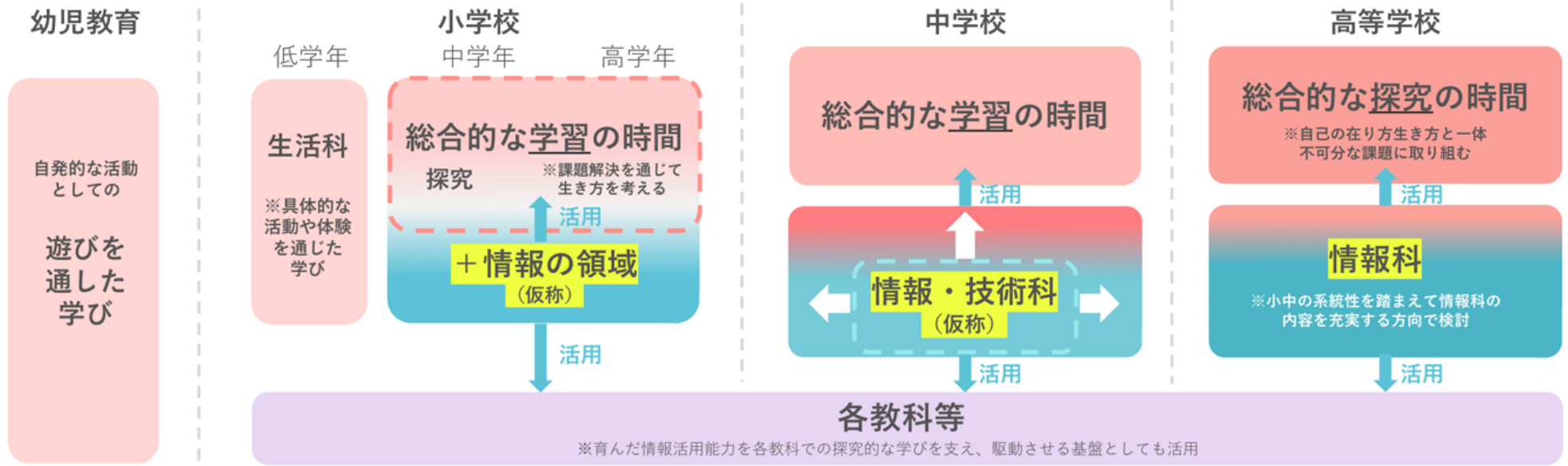
教育課程企画特別部会論点整理（令和7年9月25日）ポイント資料より抜粋して作成

4.情報活用能力の抜本的向上を図る方策とは？

情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現

課題　生成AIなどデジタル技術の発展が進む中、情報活用能力の育成にあたっての指導内容が必ずしも十分でなく、小中高通じた育成体系が不明確。

情報活用能力を各教科も含めた探究的な学びを支える基盤と位置付け、小中高を通じた体系的・抜本的な教育内容の充実を図る。デジタルの負の側面にも対応しながら情報技術を自在に活用して課題解決ができる人材を育成する。



- **各教科等の改訂の方向性について専門的に検討するため情報･技術WGを設置**
  その後、教育課程企画特別部会を中心に議論がすすめられた
- **令和8年9月25日には教育課程企画特別部会において「審議まとめ（案）」が審議されたところ**

目指す姿

令和8年9月25日教育課程企画特別部会資料1審議まとめ（案）P760をもとに作成

情報の領域、情報・技術科 、情報科の体系整理の方向性

1．2040年の社会の想定

✓ **AI・ロボットによる雇用構造の変化**
- 生産年齢人口の約1,100万人の不足
- AI・ロボット等の活用を担う労働者が約339万人不足

✓ **偽・誤情報の拡散による社会の分断**
- フィルターバブル等による価値観の偏りが増大
- 負の側面の理解、適切に対応する力が不十分

✓ **流動化する労働市場と マルチステージ型社会への転換**
- 社会や産業のニーズに応じて柔軟に学び続け働く姿勢の重要性の高まり

教育政策の遅れが、新たな価値創出を阻み、我が国の経済・民主主義の基盤を揺るがす

2．重視すべき方向性

❶ 日々の情報を見極め、ゆるぎない健全な民主主義社会を支える主権者の育成



➢ 情報技術やメディアの正負の側面を捉え、日常にあふれる情報の真偽や偏りを吟味して、意見を形成したり、判断を留保したり、異なる他者と対話したりする

❷ 社会の変化に積極的に対対応し探究し学び続けるアクティブラーナーの育成



➢ 情報技術を活用して自ら問いを立て、多様な情報を収集、整理・分析し学び続ける

❸ 我が国の経済の維持・発展を担うアドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成



➢ AI、DX等のスキルを駆使し、自身の生産性を向上したり、安全性や信頼性を踏まえ現場で協働的に課題解決を進めたりする

❹ 社会革新を生み出す世界トップレベルのイノベーターの育成



➢ 多様な情報を統合して新たな価値を創造したり、AI等を用いて新たな仕組みやサービスを構想する

すべての人々に情報活用能力が必須となる

❶～❹に繋げるため、すべての子供たちに一定程度以上の情報活用能力を育み、
- ✓ 情報技術の賢い使い手を育てる（**広い裾野**）とともに、
- ✓ できる限り多くの情報技術を活用したイノベーションの創り手を育てる（**高い頂**）方向で改善

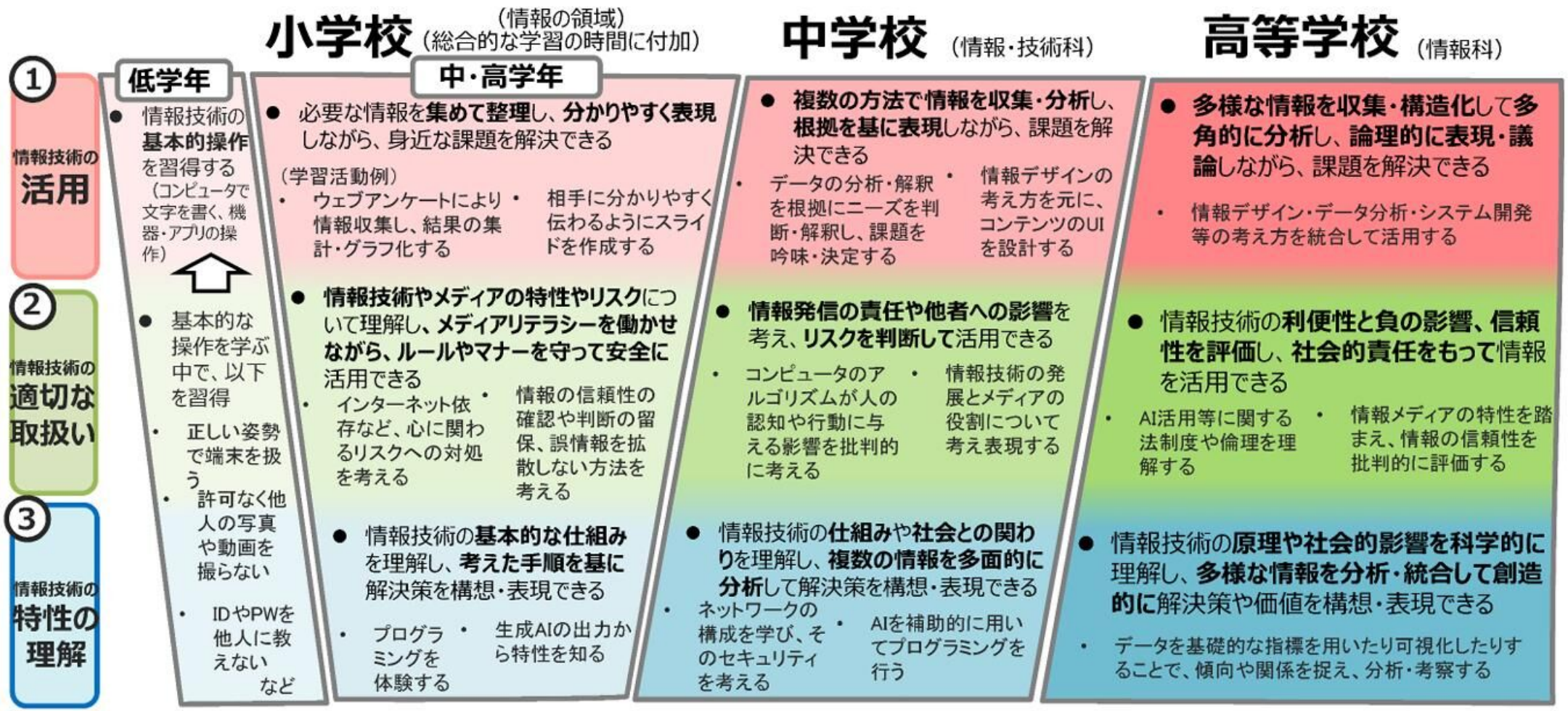
具体的には、高校卒業生全員に対し、数理・データサイエンス・AIを「日常の生活や仕事等の場で使いこなす」ことができる「リテラシーレベル」の学習を保障する枠組みを構築する。

主な改善の方向性　Ⅰ．育成すべき資質・能力

情報の領域、情報・技術科、情報科の体系整理の方向性

令和8年9月25日教育課程企画特別部会資料１審議まとめ（案）P765より抜粋して作成

育成を目指す資質・能力



※上記の学習活動の例は網羅的に示したものではないことに留意

主な改善の方向性　Ⅱ．新教科・領域等の学習内容の整理

小学校　総合的な探究の時間　情報の領域の内容項目間の関係

令和8年9月25日教育課程企画特別部会資料1審議まとめ（案）P779

目標

よりよく課題を発見・解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力について、**情報活用能力を効果的に発揮した探究**を通して、育成することを目指す

領域

「情報の領域」について「探究の領域」を基盤として支えるものとして位置付ける

- 探究の領域：**探究活動**（従来行われてきた総合の学びが情報の領域の付加により、活動内容・活動成果ともに充実）
- 発揮することで育む ⇄ 基盤として支える
- 情報の領域：**ミニ探究ユニット**（探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元）／**情報ブロック**（情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり）

内容項目（情報の領域）

① 情報技術の活用

必要な情報を**集めて整理**し、**分かりやすく表現**しながら、**身近な課題を解決**できる

課題の設定　情報の収集　整理・分析　まとめ・表現　基本的な操作

- 情報モラルやメディアリテラシーを含む情報技術の適切な取扱いを身に付けることで、情報技術に関するリスクを回避・低減し、安心して効果的に活用することができる
- 情報技術の科学的な特性を理解することで、情報技術の利点と弊害、限界を踏まえ、より効果的に活用することができる

体験的な活動を重視し、①を中核としながら、
②、③と相まって培うことで、
「探究の領域」を支える**情報活用能力を総合的に育成**
（「探究の領域」で情報活用能力を発揮することが前提）

② 情報技術の適切な取扱い

情報技術の特性やリスクについて理解し、メディアリテラシーを働かせながら、ルールやマナーを守り、他者や社会への責任を考え、安全に活用できる

法や制度　倫理　安全・メディア理解

③ 情報技術の特性の理解

情報技術の**基本的な仕組みを理解**し、**考えた手順を基に**解決策を構想・表現できる

情報及びコンピュータ　AI　アルゴリズム・プログラミング　デザイン

データの扱い　コミュニケーションやメディア　社会的役割

- 情報技術の特性を理解することで、限界やリスク、影響を正しく捉えることができ、より適切に取扱える
- また、適切な取扱いを踏まえた情報技術の活用の経験が、特性の理解を深めることにもつながる

主な改善の方向性 Ⅱ．新教科・領域等の学習内容の整理

中学校　情報・技術科　各領域・内容項目間の関係

令和8年9月25日教育課程企画特別部会資料１審議まとめ（案） P789

目標

情報や技術でものを生み出し、生活や社会の問題を発見・解決する資質・能力について、
情報技術やそれを基盤とした生産技術に関する実践的・体験的な探究活動を通して育成することを目指す

領域

情報技術　デジタルを活用して新たな価値を生み出す技術

内容項目

(1)情報の表現とデジタル化
情報やデータを正しく読み取り、その妥当性を批判的に確かめ、分かりやすく伝えられる

三位一体(※)で情報活用能力を向上

(2)プログラミングと自動化
意図に応じた命令をプログラムすることにより、作業や判断の一部を任せ、精度と効率を高められる

(3)情報基盤とシステム化
情報技術や多様な技術を組み合わせたシステムを、社会への影響に配慮しながら評価・改善できる

(※) データを基に情報を表現し、データにより特定の処理を自動化し、これらの技術を組み合わせシステムとして活用するという、デジタル社会において情報技術が機能する構造を段階的・統合的に学ぶことを指す

課題解決の構想と具体化を一体的に担う

情報技術と生産技術の融合により、包摂的で豊かな生活や社会を実現

情報を基盤とした生産技術　実生活や実社会を支えるものや仕組みを生み出す技術

(1)材料加工とデジタル製作
デジタルも活用して材料の加工や構造を工夫してものをつくり、生活や社会を便利にする

ものづくりによる問題解決力を向上

(2)生物育成とデータ活用
デジタルも活用して生物を育てる環境を調整し、食料供給や環境保全を行い、安定的な生活や社会につなげる

(3)エネルギー変換とスマート化
デジタルも活用してエネルギーの利用を効率化し、生活や社会を便利にする

外化(※)を通じた課題解決の構想と具体化を実践する機会を充実
(※)特定の技術にとらわれない、「つくる」活動を通した、知識の理解や思考した内容の表現

技術の統合

技術を関連付けて活用し、
未知の課題を解決する学習を強化

以下のプロセスを通して、情報・技術科で育成した力を
生活で生かし、未知の課題を解決する力として、より確かなものにする

仕組みの理解 → 課題の設定 → 解決策の構想 → 解決策の制作等 → 評価・改善 → 技術の俯瞰

※「技術の統合」は、教科の構造としては、「２．情報を基盤とした生産技術」領域の内容項目（４）として位置付けられる

※内容項目の名称はすべて仮称であることに留意

【②情報活用能力の抜本的向上に必要となる時数の在り方】

- ①に示したような標準授業時数を巡る状況を踏まえ、新教科・領域で育成する資質・能力の体系及び具体的な学習活動のイメージを検討する際には、これからの社会で求められる資質・能力を十分に育成できるかという視点はもとより、
  - ➢ 教育課程の肥大化を招かない範囲の必要かつ十分なものとなっているか
  - ➢ 各教科等での探究的な学習をはじめ豊かな学びの基盤として支えることができる、教育課程全体への波及効果が大きい学習内容となっているか
  - ➢ 広く国民の理解を得られるものとなっているか
  - ➢ 大学以降で提供される数理・データサイエンス・AI教育プログラム等との接続が担保されているか

  などの多角的な視点から整理した。
- また、合理的な標準授業時数の設定を行うことができるよう、全体の資質・能力の体系を整理することに留まらず、各学年・各コマに必要となる学習内容が分かる程度まで具体化を図った。
- こうした慎重かつ丁寧な検討を経て第2部第2章情報・技術、情報の項目で示された新教科・領域の学習内容を俯瞰すると、示された内容は今後の社会で求められる情報活用能力の抜本的向上に必要かつ十分なものとなっており、また最小単位で整理された各学習活動を積み上げると、各学年最大で以下の程度の授業時数が必要となると考えられる。

小学校総合「情報の領域」				中学校「情報・技術科」		
3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
各学年最大 **30**コマ程度		各学年最大 **35**コマ程度		各学年最大 **70**コマ程度		最大 **35**コマ程度

※総合における「探究の領域」と「情報の領域」はそれぞれ別途に標準授業時数を設定する

※現行の技術・家庭科の技術領域に含まれる内容を含む標準授業時数

【③追加で要する時数を踏まえた各教科等の時数の考え方】

- 今般の新教科・領域の学習内容の充実については、急速な情報技術の浸透・革新により産業・就業構造が大きく変化する中で求められる資質・能力を確実に育成することに加え、他教科等の学習との関係においても、以下のような大きな意義を有するものである。
  - ➢ 学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力育成の「要」として、新教科・領域で集中的・体系的な育成を図ることにより、いずれの教科等においても、情報活用能力を効果的に発揮した豊かな学びを実現する基盤となり、各教科等が目指す資質・能力の育成に資する
  - ➢ 新教科・領域により、各教科等における端末等の活用方法や、プログラミング、タイピングなどを含め、情報技術等に関連する内容の精選に寄与する
- このような教育課程全体の質の向上に資するという新教科・領域の意義を踏まえると、必要な授業時数を、特定の教科・領域の標準授業時数を減じて確保することは適当ではなく、各教科等の標準授業時数に応じて同一の考え方で減じて確保することが適当である。
- その際、第4章（２）の調整授業時数の上限の検討の際に議論したように、いずれの教科等についても、学習の継続性などの観点から少なくとも週1コマ程度の時数は確保することが重要であることから、現在標準授業時数が35コマ以下の教科等からは減じないことが適当である。
- 以上を踏まえると、追加で要する時数の確保に向け、小学校３年以上の各教科等の標準授業時数について、現在35コマ以下であるものを除いた教科・領域から、それぞれの既存の授業時数に対して一定の割合で時数を減じることとし、その具体は、新教科・領域で必要となる各学年の追加時数を確保できる水準とすべきである。その場合、各学年で追加で要する時数と対象となる教科等の時数を踏まえれば、一律で3-4%程度の時数を言わば「広く薄く」減ずることとなると考えられる。
- 以上を踏まえつつ、各教科等の標準授業時数の具体的な実数については、引き続き、教育課程全体の議論の進捗を踏まえて精査を行った上で教育課程企画特別部会で検討し、適切なタイミングで示すべきである。

主な改善の方向性 Ⅲ．各教科等の学びの充実と内容の精選への寄与

各教科等から移行可能と考えられる内容の整理

令和8年9月25日教育課程企画特別部会資料1審議まとめ（案）P808

● 特定の教科等において扱われている内容のうち、新教科・領域の創設によって、**各教科等において今後精選が可能と考えられる内容**は次の考え方に基づき整理（今後、告示を見据えて各教科等との調整の上、更に具体化を図っていく必要）

① 現行の各教科等の内容のうち、情報活用能力の育成にも資するものを特定する
② 新教科・領域の体系整理の際に検討した学習活動イメージを踏まえ、新教科・領域ではどのような形で扱えるかを検討する
③ ②の内容の精選により、各教科等において教科固有の学習をどのように重点化できるかなど、その効果を検討する

※各教科等の目標や内容との関係から、移行後も引き続き当該教科等で扱うべき内容が存在するものの、新教科・領域との適切な役割分担が明確になることにより、各教科等の学びの充実に資すると考えられる

各教科から新教科・領域に移行することで精選が可能

特定の教科固有の内容

【算数・第５学年】プログラミング（正多角形）

（小学校の例）以下は主な事項

【現行】
①プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、正多角形の作図に関連して、繰り返しや規則性を学習する

【情報の領域】
②プログラミング的思考や情報技術を活用したデータの収集・整理・可視化を体系的に扱う
※ ③算数では、図形の性質や規則性の理解、データの特徴や傾向を基にした統計的な問題解決などの**算数固有の学習に重点化することが可能**

【理科・第６学年】プログラミング（センサー）

【現行】
①プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、条件に応じた動作や、条件の変化による動作の違いを考察することなどを学習する

【情報の領域】
②プログラミング的思考の育成の中で、条件に応じた制御や自動化の仕組みを体系的に扱う
※ ③理科では、電気の性質や働き、エネルギー利用の仕組みなど、**理科固有の学習に重点化することが可能**

【社会・第５学年】産業と情報との関わり

【現行】
①情報技術の活用が様々な産業を発展させ国民生活を向上させていること、情報を集め発信するまでの工夫や努力、情報の種類、情報の活用の仕方などを学習する

【情報の領域】
②情報技術の社会的役割やメディアが発する情報の特性等を体系的に扱う
※ ③社会科では、情報通信技術を活用した産業と国民生活との関わりについて考察する**社会固有の学習に重点化することが可能**

【社会・第３学年】情報化

（中学校の例）以下は主な事項

【現行】
①公民的分野において、現代日本の特色として情報化を学ぶ。具体的には人工知能の急速な進化による社会の変化などを学習する

【情報・技術科】
②AI等の先端技術が社会に与える影響等を体系的に扱う
※ ③社会においては、情報化や先端技術の登場に伴う社会や国民生活の変化や課題を考察する**社会固有の学習に重点化することが可能**

【数学・第１学年】データの整理・分析

【現行】
①コンピュータなどの情報技術を活用してデータを収集・整理・分析し、その傾向を読み取って考察・判断したり、標本を抽出したりすることを学習する

【情報・技術科】
②情報技術の活用によるデータの収集・整理・分析に関する内容を体系的に扱う
※ ③数学においては、統計学の数学的な側面や標本調査の数学的な意味を理解する**数学固有の学習に重点化することが可能**

【保健体育・第１学年】健康との関わり

【現行】
①保健分野において、健康の保持増進や健康的な生活習慣の形成の一環として、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりを学習する

【情報・技術科】
②長時間利用等の情報機器が健康に与える影響等を体系的に扱う
※ ③保健体育においては、これらを前提として、健康的な生活習慣の形成や健康の保持増進に関する**保健分野固有の学習に重点化することが可能**

端末等の活用方法

【国語・第３学年】タイピング

【現行】
①ローマ字による表記の仕方や、読み書きの指導に関連して、コンピュータでローマ字などの文字を入力するといった基本的な操作を学習する

【情報の領域】
②キーボードで文字を入力する基本的な方法や反復して習得していく大切さ等を体系的に扱う
※ ③国語科の文脈に依存することなくキーボード入力を学ぶことができ、**ローマ字入力によるタイピングの習熟や各教科等の端末を活用した学習活動の高度化が期待**

【美術・各学年】メディアの活用

【現行】
①美術の表現の可能性を広げるため、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアを積極的に活用する

【情報・技術科】
②端末を活用した映像メディアの操作や情報デザイン等を体系的に扱う
※ ③**各教科等における端末を介したメディアの活用等による学習活動の高度化が期待**。なお、美術科固有のデザインや映像メディアに関する学習は引き続き美術で指導

【各教科等共通】その他端末等の基本的な使い方や各種アプリケーションの操作の仕方

（新教科・領域に新たに記載することで、他教科等の学びの充実に寄与）

【現行】
①端末や各種アプリケーションの使い方を各教科等の文脈の中で指導

【情報の領域、情報・技術科】
②端末等の基本的な使い方や各種アプリケーションの操作の仕方について、発達段階に応じて体系的に取り扱う
※ ③（小学校の例）教科等の文脈に依存することなく習得でき、例えば、ある教科で学んだスライド資料の作成方法が、他教科等での発表活動に十分生かされない等といったことの解消が期待

文部科学省

令和８年１０月１日
第１１回デジタル学習基盤特別委員会
資料３－３

AIガイドラインの改定に向けた検討状況について

セキュアな環境における生成AIの校務利用（令和6年度･7年度実証研究事業）

文部科学省

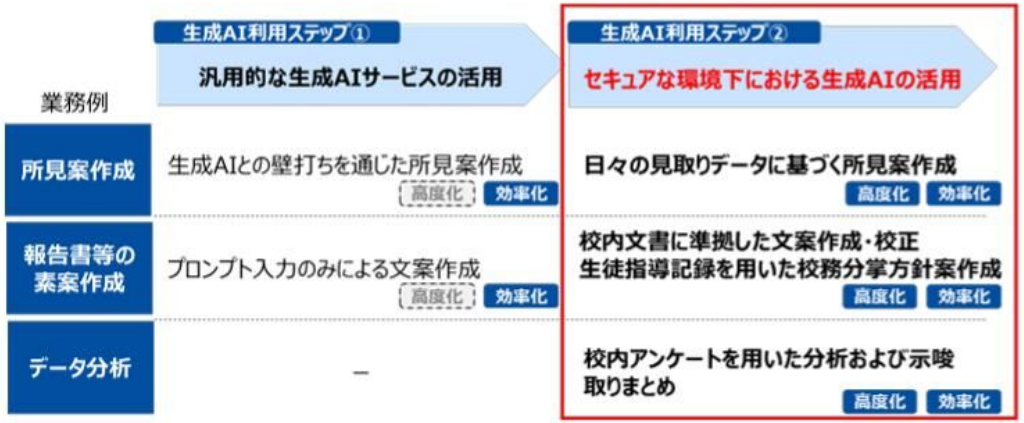
現状

- 「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」（令和6年12月）でも改めて、**学校の働き方改革や教育活動の高度化のため、校務において生成AIを積極的に利活用することは有用である**と示されている。
- 上記ガイドラインを前提に、生成AIパイロット校事業では、**一般向けの汎用的な生成AIサービスを用いた事例が創出**されている。
- 一方で、**一般向けの汎用的な生成AIサービスは**各自治体の制度や環境、実態を考慮したサービス設計にはなっていないことから、**成績情報等の重要性の高い情報を入力できず、特に校務を実施する際の利活用の障壁となっている**。
- 上記を踏まえ、重要性の高い情報も活用するための**セキュアな環境（セキュリティの担保されたデータレイク等）を構築したうえで、生成AIを活用する実証事業を実施**。

成果１（学校現場における実証）

- 生成AIを活用した**セキュアな環境の構築に係る課題を整理**。
- **生成AI×ダッシュボードの活用方法等に係る課題の整理**。
- 学校現場における**セキュアな環境下での生成AIの利活用による事例の創出**。

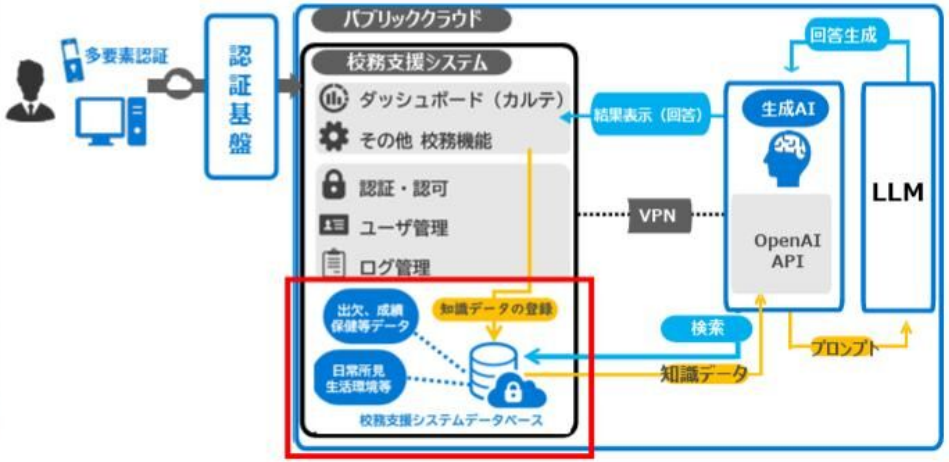
実証研究において創出された生成AI活用事例



成果２（校務支援システムの機能向上）

- **校務システムに蓄積されたデータの活用を前提にしたセキュアな環境構築等に係る課題の整理**。
- 具体的な業務場面を想定した試作版を開発し、**校務支援システムに軸足を置いた生成AI活用に係る効果を検証**。

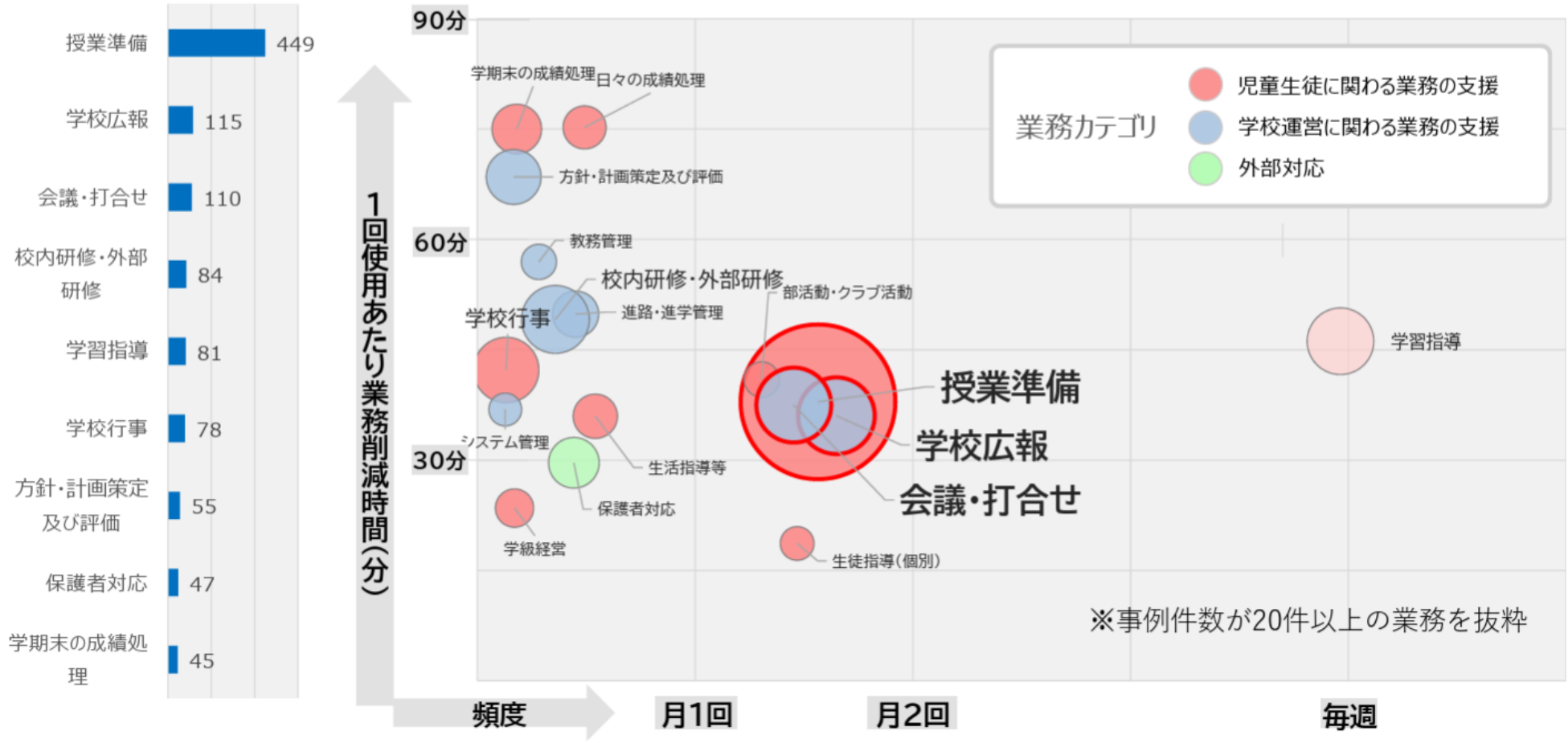
校務システムに蓄積されたデータの活用を前提にしたセキュアな環境



- 一般向けの汎用的な生成AIサービスの活用には、重要性の高い情報の取り扱いの観点から、業務の効率化に明確な限界が存在する。
- 一方で、**学校現場に蓄積されたデータを活用することができるセキュアな環境下においては、業務の更なる効率化はもちろん、業務の「質の高度化」にも寄与**することが想定される。

生成AIを活用した業務時間の削減の可能性（令和7年度生成AIパイロット校の報告例ベース）

- R7年度生成AIパイロット校 校務利用の学校におけるAIを活用した校務の「発生頻度×１回あたり業務削減時間」の散布図。（※削減時間・頻度は各指定校の報告ベースの数値を平均的に表している参考情報。必ずしも一般化できるものではないことに留意。）
- 授業準備・学校広報・会議打ち合わせに関する校務について、活用事例が多く見られる。



※各項目は、「統合型校務支援システムの導入のための手引き」（2018年度文部科学省「校務におけるICT活用促進事業」）より作成

AIを使いこなす力の育成

※ 中教審教育課程部会第６回情報・技術WG「AIに関する現状と課題について」の要点をまとめた資料

- **AI（生成AIを含む）を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりする力**（いわゆる「AIリテラシー」）を育成するため、「**AI自体を学ぶこと**」と「**AIを活用して学ぶこと**」に整理して構造化し、**発達段階に応じて体系的・系統的に取り扱う**方向。
  - ✓ 総合的な学習の時間の「情報の領域」では、様々な学習場面で汎用的に求められる、AIの特性やそれを踏まえた適切な取扱い方に関する内容を精選したうえで、**AIの効果的な場面と注意が必要な場面の双方を体験的に学習する活動を扱う**こととする。
  - ✓ 「情報・技術科」では、**扱う情報技術や生産技術**（※）**とAIが密接に関係する**ことを踏まえ、教科内の各内容においてAIとの関係を関連付けながら横断的に扱うこととする。
  - ✓ 情報科では、AIとの関係を関連付けて横断的に学ぶことを前提に、情報Ⅰでは**社会におけるAIの利用者としての視点**を中心に扱い、情報ⅡではAIに関する項目を新設し、**AIの開発や提供に資する発展的な内容**を扱うこととする。
- この力は、**新教科・領域等において育成**し、各教科等の学習の中で効果的に機能させることが適当。
- さらに、**AIの出力を批判的に吟味しながら、利点を生かして活用できるようになるための方策**については、**発達段階を踏まえ、生成AIの利活用に関するガイドラインにおいても検討を進めている。**また、AIはとりわけ技術の進展が目覚ましいため、このガイドラインや教材等も活用しながら**教育内容の陳腐化を防いでいく**必要。

（※）材料と加工の技術、B生物育成の技術、Cエネルギー変換の技術

学習内容イメージ

	小学校 総合 情報の領域	中学校 情報・技術科	高等学校 情報科 情報Ⅰ（※必履修科目）	情報Ⅱ
AI自体を学ぶ AIの適切な取扱いと特性の理解	● **依存のリスク等**を踏まえ、**AIに頼りすぎないことや自ら適切な距離を取る必要**があること	● AIの利用には**権利侵害や悪用、誤情報等のリスク**があり、リスクを踏まえた**活用が重要**であること	● **AIが社会の情報の生成や流通に関与**することで利便性とリスクが増幅することを理解すること	● AIのリスクを踏まえた**人間中心の設計と評価**が不可欠であること
	● AIは**既存のデータを基に予測・生成**しており、**出力結果には誤りや偏りが含まれる**こと 	● 生産技術に実装された**AIは、現実世界の情報を捉えて働き、**生活や社会で営まれる作業を自動化すること 	● **自律的に動作するようなプログラムの特性を理解**し、AIを含む情報システムを構成できること 	● AIを含む先端技術等を活用した**情報システムを構成・実装することができる**こと 
AIを活用して学ぶ 資質・能力の育成を行う観点から活用が効果的かを吟味	● AIの**基本的な仕組みや特徴を理解したり、作品制作をする**ために体験的に活用 	● AIを**原理や特性を踏まえて使い方を設計・判断・評価する対象**として捉え、**技術の学習過程を充実させる**ために活用 	● AIを**「多様な情報を結び付け、処理し、新たな情報を予測・生成する情報技術」**として捉え、**情報技術の科学的な理解を確かなものとし、それに基づく探究的な活動を含む学習過程**を充実させるために活用 	

高等教育段階 数理・データサイエンス・AI教育